

多元性に着目した復興再考〔若手奨励〕特別研究委員会—パネルディスカッション

若手研究者による「復興」再考

—多元性の理解に向けて

〔資料あり〕

9月12日（火）13:30～17:00 オンライン 第M室

司会 益子智之（東京都立大学）

副司会 白石レイ（山口大学）

記録 福田昌代（千葉大学）

1.主旨説明 須沢 栞（東海大学）・益邑明伸（東京都立大学）

2.主題解説

①復興の主体と資源

野口雄太（福岡大学）・坪内 健（札幌市立大学）・須沢 栞（前掲）

②主体からみる合理性

益邑明伸（前掲）・萩原拓也（名城大学）

③場所の意味と計画論への接続

益子智之（前掲）・荒木笙子（東北大学）・白石レイ（前掲）

④海外の事例からみる復興

鈴木さち（世界銀行）・大津山堅介（東京大学）

3.コメント

牧 紀男（京都大学）・佃 悠（東北大学）・高木竜輔（尚絅学院大学）

4.討論

5.まとめ 鈴木さち（前掲）

東日本大震災から10年以上が経過した現在、私たちの生活を取り巻くリスクは、自然災害だけでなく感染症によるパンデミックや気候変動などが台頭し多様化している。そもそも復興は、多様な主体の価値観や意思決定のもとでなされており、目指すゴールも一様ではないため、事業の進捗状況といった単一軸では評価することができない。

10名の若手研究者によって構成される「多元性に着目した復興再考〔若手奨励〕特別研究委員会」では、従来の復興概念にとらわれず、多様な主体や固有の状況を理解する必要があるという問題意識から、「復興」の多元性について議論を重ねてきた。

本パネルディスカッションでは、これまでの議論を踏まえ、以下の4つの観点から複数

事例の報告を行う。そして、コメンテーターおよび会場との議論から、多元的な復興への理解が生み出す可能性についてさらに内容を深めていきたいと思う。

- ❶復興の主体と資源：そもそも復興の主体と資源には何が挙げられ、それら主体と資源の複雑な関係性の理解のために必要なことは？
- ❷主体からみる合理性：各主体の復興プロセスの多様な背景を捉えたうえで、選択の背景にある理由や価値観をどのように理解できるのか？
- ❸場所の意味と計画論への接続：空間や場が持つ意味、多元性の概念が計画論にどのように接続するか？
- ❹「復興」再考：成熟・縮退期に求められる目標や、「復興」という言葉では収まらない活動・概念をどのように捉え直すことができるか？